©岡山県「ももっち」

学力向上担当者通信　NO.1

岡山県教育庁義務教育課
令和4年4月1日

全国及び県学力・学習状況調査で児童生徒が力を発揮するために！

本通信は、児童生徒の学ぶ力の育成に向け、組織的かつ計画的な取組を推進するに当たり、学力向上担当の先生方に参考となる情報を発信するものです。

今号では、前年度までの学習の成果を確認できる、全国及び県学力・学習状況調査（４月１９日（火）実施）において児童生徒が力を発揮し、新年度の学習に意欲的に取り組むための取組例を紹介します。

今年度の調査は、３年振りの４月実施なので時間が限られていますが、児童が自信をもって調査に臨み、力を発揮できるようにしたいと考えています。どんな支援ができるでしょうか。

例えば、学力調査のちらしを活用して、**子どもたちとやりとりをしながら、やる気を引き出す**のはどう？調査に向けた準備と心構えが、力を発揮することにつながるのではないかな。

【調査日までに】目的や特徴を確認しよう。

4月１９日（火）に、岡山県学力・学習状況調査がありますね。

去年は問題を読むだけで、時間が足りなくなっちゃったんだ。

去年は苦手な問題が出て、途中であきらめちゃったよ。

全国の友達の中で自分の力が試せるって聞いたよ。

ちらしを配るので、一緒に確認しましょう。

去年と比べて、どれだけ力が伸びたか、確認できるんだ。頑張るぞ！

今の自分の力を試すことができるんだね。
最後まであきらめないぞ！

令和４年度　岡山県学力・学習状況調査が行われます！

岡山県教育庁義務教育課

これまでに学習した内容がどれだけ身に付いているか、どれだけ自分の力がのびたかを確認しよう！

調査をする日　令和４年４月１９日（火）

調査する学年・教科

小学校				中学校		
3年（県）	4年（県）	5年（県）	6年（全国）	1年（県）	2年（県）	3年（全国）
国語 算数	国語 算数	国語 算数 質問紙調査	国語 算数 理科 質問紙調査	国語 数学 質問紙調査	国語 数学 英語 質問紙調査	国語 数学 理科 質問紙調査

※国語や算数では、前の学年までに学習した内容から問題が出されます。
※質問紙調査では、生活や家庭学習、授業中の様子について質問されます。

令和３年度の調査結果から分かったこと

【国語】
いくつかの条件にしたがって文章を書く問題に成果が見られました。
前学年までの漢字を正しく書いたり、ことわざの意味を知り正しく使ったりすることに課題がありました。

【算数】
グラフから必要な情報を正しく読み取ることに成果が見られました。
小数の計算や分数の理解に課題がありました。また、５年生の、ともなって変わる二つの数量の関係を式に表す問題は、毎年課題が見られています。

✓ 調査を受けるときには、自分が持っている力を全て出し切って、「力だめし」ができるよう、最後までねばり強く取り組みましょう。
✓ ４年生、５年生は前年度までの学力からののびもわかります。結果が返されたら、先生や家の人と相談して、学習の進め方や家庭学習で取り組む課題を工夫し、自分の力をさらにのばすことに役立てましょう。

国語は、文章を書く問題が出るんだな。漢字の練習をしておいた方がいいかな。
算数は、小数や分数、グラフ･･･、色々な問題が出そう。苦手な問題は復習しておこう！

【当日】留意点やメッセージを伝えよう。

教員で相談し、全学級で示す時間割や気を付けることに加え、担任からのメッセージで応援するぞ！

時間が足りなくなっちゃった。

苦手な問題が出て途中であきらめちゃったよ。

全国で力を試せるって聞いたよ。

時間割
準備物

気を付けること
- できる問題から解く。
- 問題をよく読む。
- 見直しをする。
- 空らんを作らない。

メッセージ
時間いっぱい
あきらめずに
解こう!!

紹介した例以外にも、初めて調査を受ける小学校３年生への事前授業等、実態に応じた準備を進めている学校もあると聞いています。

４月は、普段以上に忙しい時期ですが、児童生徒がやる気に満ちている時期でもあります。新年度を気持ちよくスタートするために、ちらしを配付する機会等を活用し、**児童生徒が最後まで調査に取り組み、力を発揮できる**よう、先生方の支援をお願いします。

©岡山県「うらっち」

全国調査の「調査マニュアル」や、県調査の「実施の手引き」、教室監督者用の手引き等を熟読し、**調査がスムーズに実施できるよう準備しておくことが大切**です。
また、学年団など**複数で確認しながら準備や作業を行う**ことで、ミスが少なくなります。

もう一押し！

県内には、学校経営アクションプランや校内研究テーマと学力･学習状況調査の結果を結び付けて、分析している学校が多く見られます。**学力向上担当者が、積極的に提案や発信を行い、「知」の項目に関する学校全体のベクトルを揃える**ことは、**組織的な取組を推進するための原動力**になります。